

## 住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

# 京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

「わらじ医者の女房」早川ゆきエッセイ

**好評発売中!**

## かんげつ 『寒月』

定価 2,000円＋税

(80ページ フルカラー 上製本)

エッセイ 早川 ゆき  
画 神門やすこ

忘れられないあの頃、どうしても伝えておきたいことがある——「わらじ医者の女房」早川ゆきエッセイに『福祉のひろば』の表紙絵でおなじみの神門やすこが一つひとつのエピソードに込められた思いに共感し、描き下ろしの画を添えて、一冊のすてきな絵本が誕生しました！



# 「健康で文化的な生活」を 支える実践

(シリーズ 健康で文化的な最低限度の生活を考える)

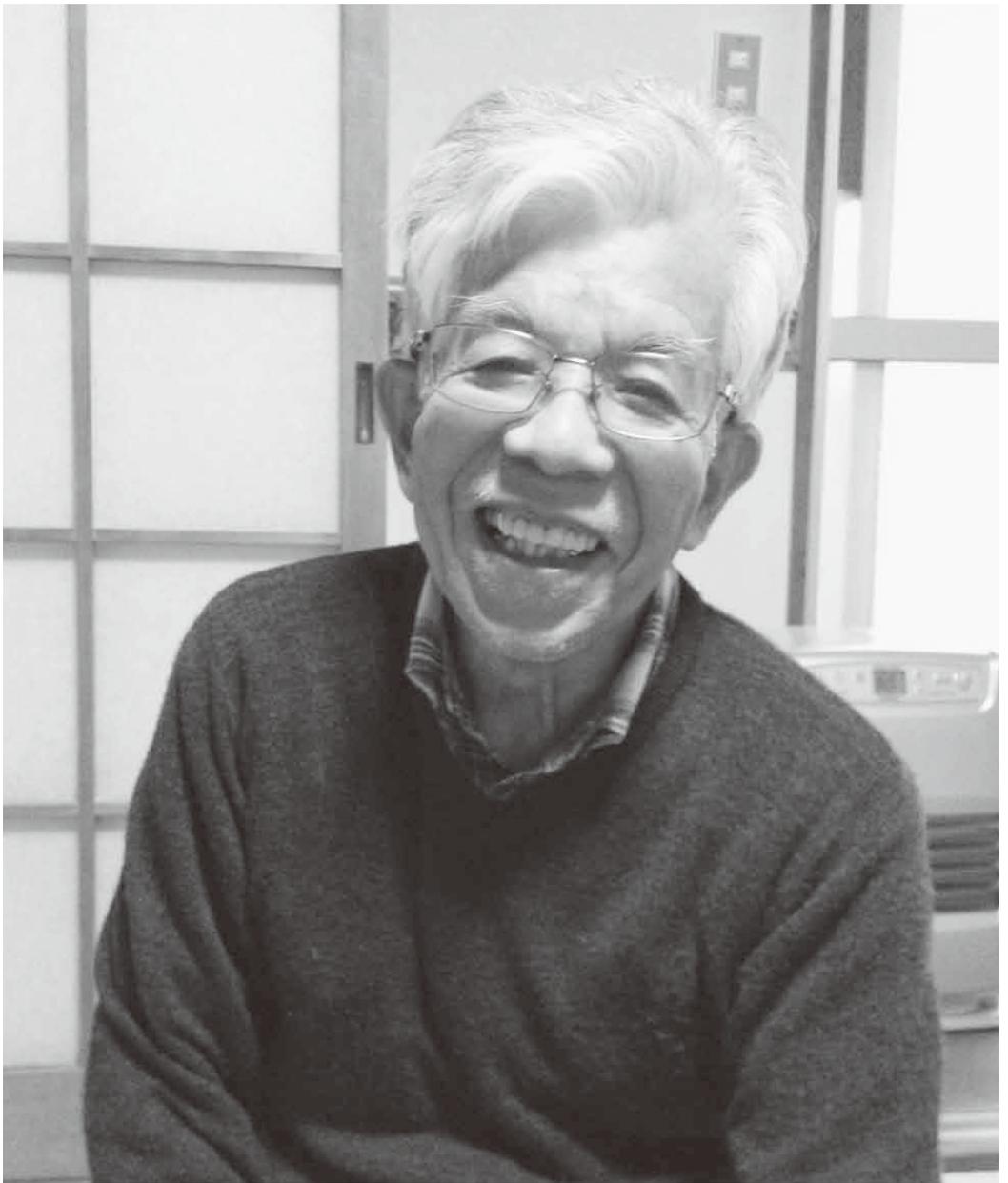
北陸の長かった冬が終わり、待ちに待った春の到来。とくにこの冬は大雪で長いあいだ白い世界でした。入居のみなさんも、順番に近所の桜の名所にお出かけ。なんぶやすらぎホーム(石川県金沢市)で暮らしておられるお二人(ご夫婦ではありません。ご近所同士です)がそろってお花見に。満開の桜を前に、お互い春をめでてにっこり、柔らかな表情に。うれしい桜です。





なんぶやすらぎホームの定員は40名です。石川県では50人以下の施設は、不在者投票が施設内でできない規則でした。入居のみなさんと、「施設に入っても社会参加したい」というあたりまえの要望を、県の選挙管理委員会に伝え、2年がかりで施設内での不在者投票が実現しました。「自分の住んでいるところで投票ができるのはうれしい」「女性が投票できるようになってから欠かさず投票に行っている」と、参政権を行使できました。

(1・2面 写真 文：坂口朋美〈なんぶやすらぎホーム施設長〉)



「未来を信じ、未来に希望をつないで生きることができる」と、日本国憲法の誕生をよろこんだころを思い返す。80歳を超えた今、この国の政治に何をか思わん。貧困と差別の加速、老人の生き方じらいについても、排除の論理と自己責任論。“老いを敬い、老いに学ぶ”という敬老の思想の否定、爾来東洋思想では大切にされていた“障害者”の居所こうしきゆうが奪われている状況を深く憂いている」と書いてくれた、井上公舟さん。「君たちががんばってよ」と笑っています。(写真・文 鈴木太一〈京都市原谷地域包括支援センター「高齢サポート・原谷」社会福祉士・主任介護支援専門員〉)



高槻温心寮での高齢期の暮らしは、「住みなれた施設でいつまでも」。暮らしの安心はもちろん、笑顔いっぱい、おしゃれも楽しみたい……。それが高齢者の施設ではなく、生活保護の施設でむかえるものであっても。

(写真 文：田中彰〈高槻温心寮施設長〉)

## ●特集● 高齢期の豊かさ——健康で文化的な最低限度の生活保障とは

## 【座談会】 高齢期における健康で文化的な最低限度の生活とはなにか

坂口朋美、鈴木太一、田中彰、新井康友	10
健康で文化的な最低限度の生活とはなにか	秋吉澄子 26
特集をおえて	西村憲次 30

## ●トピックス●

大阪の高校生は負けへん！	申佳弥 31
大阪府民・市民・子どもたちのための行政をよもやま話	奥野喜久夫 34 黒田孝彦 36
人権を求めた奄美和光園と自治を創造した外島保養院の移転先、 邑久光明園	
千田勝夫さん・絹枝さん 3年間の連載を終えて	44
第24回社会福祉研究交流集会 案内	50
総合社会福祉研究所第15期第7回理事会	54

## ●連載●

社会福祉研究に人生あり！ とにかく勉強がしたかった	相澤與一 58
相談室の窓から 万引きをしてしまう背景には（その2）	青木道忠 62
育つ風景 かぼちゃのつるの気持ち 「助けて！」って言ってもええねんで！	清水玲子 64
子どもが「教育」にたどりつける支援を ひととしてあたりまえに生きたい	徳丸ゆき子 66
ろう学校での生活	清田 廣 68
映画案内 『妻よ薔薇のように 家族はつらいよⅢ』	吉村英夫 70
現代の貧困を訪ねて フィールドワークや夜まわりで起こるいくつかの問題	生田武志 72
似らずとれーしょん道場 似顔絵まんがアート 見比べて描くのじゃ～！	ラッキー植松 74
ホームレスから日本をみれば	ありむら潜 76
花咲け！男やもめ	川口モトコ 77

●表紙の絵●  
神門やす子

銭湯から子どもの貧困を  
かんがえるたまる まさたか  
朝日温泉 田丸 正高さん

地域の人たちが「子ども食堂」を実施しているのを、たまに目にします。そのまま「子ども銭湯」「子どもお風呂」なんてのができたらいいなと考えていました。

しかし、たんに子どもの入浴料を無料にするボランティアでは、長く続けることはできません。イギリスでは、カフェに入ったとき、自分のコーヒー代金とは別に、コーヒー二杯分を先払いし保留しておきます。こうしてできた「保留コーヒー」(Suspended Coffee)を、貧困層の人にプレゼントするというシステムが定着しつつあるそうです。それのお風呂バージョンができないかと考えました。銭湯でもそんなことができれば、将来的に子どもの風呂代を無料にできて、子どもが自由に銭湯を楽しむことができる可能性があるのではないかと思います。

また、家でも満足にお風呂には入れない子どもたちが、「子ども銭湯」をとおして週に一度でも大きなお風呂に入ることができたらステキだなと考えていました。ボランティアや無料で入浴するのではなく、あくまでも大人がカンパをして、子どもにお風呂をプレゼントするという企画です。どこから財源をもらってきけるのではありません。本当に近い顔の見える人から顔の見える子どもたちへ「をしようと考えていました。

一週間後には、動きはじめていました。子ども銭湯をはじめのあたり、お客さんたちにごう説明すればよいのかわからず、カンパ箱を「そつと」置きました。当初はそんなに集まらな



## たまる まさたか

2003年に脱サラをして朝日温泉を手伝いはじめ、2007年に全面リニューアルして朝日温泉の3代目となる。2015年より子どもから大人まで幅広く銭湯に馴染みをもってもらおうと、普段銭湯でやつらに絶対怒られることを競技に変えて遊ぶ！ をコンセプトにもフロンティックを開催。イベントを通じて普段銭湯へ行かない人にも足を運んでいただくきっかけになればと、精力的に活動しています。

2018年2月より子ども達に銭湯に馴染みをもってもらうべく『子ども銭湯』を開始。毎月第1、第3日曜日(12時～13時)開催しています。※日程変更になることがありますのでお問い合わせください。 <http://www.asahi-onsen.com>

いだろうと思っていたのですが、おどろくほど集まっています。お客さんが、「はいこれ今週のぶん」と言いながらカンパしてくれます。また、フェイスブックやツイッターなどのSNSをみて子ども銭湯を知った方からも、カンパをいただいています。

一回目(二〇一八年二月一八日開催)は、一九人(小学生一六名、幼児三名)の子どもが入りにきてくれました。また、ボランティアスタッフとして地域の方々が集まってくれました。

いっぽうで、課題も多く残りました。たとえば、小さい子どもたちに対して、なぜお風呂代が無料なのかという話をするのですが、口頭での説明ではまったくいっていいほど伝わっていないと感じました。絵で見えて伝わるような工夫が必要だと感じました。まだまだ発展途上ですが、これまでに五回開催できました。子ども同士がもつと集まるようになれば、自然と友だちにもなれると思います。

地道にでも続けていくことが大事だと思っています。一年で終わってしまうと意味がない。辞められないイベントになってしまいました。大阪府公衆浴場組合事業委員会「J-ON-ON(湯)」でも「子ども銭湯をやる場所はやろう」という話になっています。この輪がどんどん広がればいいなと思います。

今回の子ども銭湯は、六月三日一二時から一三時までです。

# 高齢期の豊かさ

## 健康で文化的な最低限度の生活保障とは

「わしはもうこの家では死ねんのか」

いよいよ老人ホームへ行くという朝、九十七歳の政一さんは、九十四歳の奥さんに聞くと

「もう誰も世話でけへんのや。わても体が弱ってしもたし」

政一さんはそれ以上何も言わずに 息子さんの車で山里はなれた老人ホームへ入所して行った。

子どもが七人、皆それぞれ結婚して独立し、その家には老夫婦二人の暮らしがもう二十五年も続いていた。

.....

おじいさんは、毎日のように家へ帰りたいたいと寮母さんに頼み、

「おばあはどうしてる」

と聞き、皆返事に困ったそうである。

.....

そして、ある朝、政一さんは、食事のわかめを喉に詰めて、あつという間に窒息した。それはまことにあつけない死であった。

西陣織の優れた技術者で、無形文化財にも指定された政一さんは、誰にも看取られずに逝った。九十七歳であった。あんなに帰りたがった家に帰れたのは、骨になってからだだった。

(わらじ医者の女房 早川ゆき エッセイ『寒月』「ある死」より抜粋)

今回の特集では、高齢期における健康で文化的な生活、最低限度の生活を、高齢福祉に関わっている方々や、日頃から高齢者や家族を見守られている方々から思いや願い、現場からの問題提起を寄せていただきました。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。(編集主幹)

